



2019年9月10日発行



今回の紙面から（ページと内容）

会長就任にあたって	1
第37回大会のお知らせ	2
第13回国際春季フォーラムのご案内	4
終身会員の登録申請について	4
理事会より	4
編集委員会より	5
大会運営委員会より	6
広報委員会より	7
学会賞委員会より	7
日本英語学会2018年度会計報告	8
日本英語学会2019年度予算計画	8
日本英語学会2019年度学生会員発表 助成金予算計画	9
日本英語学会2019年度市河三喜研究 助成金予算計画	10
言語系学会連合について	10
事務局より	10

会長就任にあたって

会長 廣瀬 幸生

今年度4月より、思いがけず会長を務めることになりました。昨年度、会長選挙のあり方が変更され、従来は理事が選挙人だったのが評議員を選挙人とし、理事経験者を被選挙人として選ぶという形に改められました。新制度では、2年会長を務めた後、1年副会長として新会長を補佐するとともに、会長になる前に1年副会長を務め、その間、次期会長として心や体制の準備を整え、それによって会長・事務局の引き継ぎがスムーズに行くようにするという趣旨になっています。ただし、昨年度は初回でしたので、私自身は副会長の経験なく急に会長を務めることになりましたが、今年度は特別措置で、伊藤たかね前会長が副会長として残り、新米の私を支えていただいています。

会長の交代は事務局の交代でもあります。事務局長には同僚の和田尚明さんに就任を依頼し、新事務局を編成し、3月に前事務局との引き継ぎを行いました。とはいえ、1回の引き継ぎでカバー

できるような業務内容ではありませんので、その後も、磯野達也前事務局長をはじめ前事務局の皆さんにご教示をいただきながら、何とかスタートを切りこれまでやってこられました。会長・事務局ともに、まだ不慣れで至らぬ点が多々あるかと存じますが、会員の皆様には、ご理解とご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

日本英語学会は1983年に設立され、当時、私は筑波大の院生として安井稔初代会長のもと事務作業も手作業で手伝いました。それ以来、今年で37年目を迎えます。その間、EL・JELS等の機関誌の充実、国際春季フォーラムの開催、国際連携の強化、EL論文賞・優秀発表賞・新人賞・学会賞等の顕彰制度の導入など多くの事業が整えられ、学会として十分に成熟してきたと言えます。

さらに、今年度より2つの助成金制度の運用が開始されることになりました。1つは「市河三喜研究助成金」で、これは「市河賞」関係者からのご寄付により、学会賞（著書）の受賞者に副賞5万円を授与するというものです。もう1つは「学生会員発表助成金」で、これは顧問の中島平三先生からのご寄付により、学生会員が秋の大会および国際春季フォーラムで発表する場合に1件につき1万円の支援を行うというものです。また、顕彰制度の延長として、大学院生会員が新人賞を受賞した場合は、その受賞者を日本学術振興会の「育志賞」候補として学会から推薦するという案が6月の理事会で承認され、今後、該当者がいる場合には推薦手続きを行うことになりました。

このように学会活動が年々充実してきているのは非常に喜ばしいことですが、その一方で、それに対応する事務量も増大化してきており、事務局には大きな負担となっています。そこで、事務局の仕事を見直し、業務をできるだけ簡素化していくという方針を立て、理事会・評議会・各種委員会においてもご理解・ご協力をいただけるように運営を進めていきたいと考えています。また近年、会員数は減ることはあっても増えることはあまりないという状態が続いていますので、財政

的にもかなり苦しい状況です。そのような中、削れるものは削らざるを得ないということで、*Conference Handbook*は今年度については紙印刷版と電子版の両方を作成しますが、来年度以降は電子版のみとすることになりました。また、*JELS*のCD-ROM版の作成・配布も今年度限りとし、来年度以降は学会のサイトにアップし、誰もがオープンアクセスできるようにする予定です。

今年度、英語学会は言語系学会連合の委員長学会としてその運営を担当しています。その企画の1つとして、複数の学会から講師を招いて、「ことばは現実をどう捉えるか—ことばの対照研究のおもしろさ—」という公開特別シンポジウムを11月の関西学院大学での大会で開催いたします。これは、経済優先で英語中心のグローバル化が進む中、英語以外の外国語はおろか母語の日本語でさえも軽視される現状に鑑み、「人間のこころ・文化・社会を映し出す鏡」としての言語の重要性を再認識し、日本語と外国語を比較する対照研究のおもしろさと奥深さを一般向けに発信することを意図しています。研究を取り巻く環境が厳しくなっている昨今では、研究の公開性と社会への還元が益々求められますので、このような公開シンポジウム開催にも学会としてこれまで以上に前向きに取り組む必要があると感じています。

学会運営が大変難しい時代ですが、それだけに会員の皆様には、学会活動へのさらなるご支援とご協力を賜りますよう、重ねてよろしくお願い申し上げます。

第37回大会のお知らせ

日時：2019年11月9日（土）・10日（日）

場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス
(〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155)

日本英語学会第37回大会は、大会運営委員会と開催校のご協力とご尽力により、着々と準備が進められています。今大会のスケジュールは以下の通りです。シンポジウムは第1日の午後と第2日の午後に予定しております。

11月9日（土）

9：30～11：45 ワークショップ

9：30～11：45 スチューデント・ワークショップ

11：30 受付開始

12：00～12：50 総会

12：55～15：05 特別講演

15：15～18：00 公開特別シンポジウム、
公開シンポジウム、シンポジウム

18：20～19：50 懇親会

11月10日（日）

9：00 受付開始

9：30～12：10 研究発表

13：10～15：55 シンポジウム

今年度は、4件のワークショップ、24件の研究発表、3件の特別講演と7件のシンポジウムが予定されています。特別講演は今大会から始まる新企画で、講師と題目は以下の通りです。

- ・Kentarō Nakatani “Linguistic competence, performance, entailment, and inference—How is our mental system organized?”
- ・戸次大介「理論言語学に基づく自然言語理解の最前線」
- ・山口治彦「対話空間と談話の文法」

シンポジウムの内容は以下の通りです。（〔 〕内は司会者、（ ）内は講師と題目を示します。）

- A. 「統語-音韻インターフェイスに必要な情報の表示をめぐって」〔漆原朗子〕（木村博子・成田広樹「削除が意味解釈に及ぼす影響について」、漆原朗子「複合語の音韻的実現およびオノマトペ述語の意味解釈に必要な情報」、渡辺明「Pred⁰」、多田浩章（ディスカッサント））
- B. “The Semantics of Intensional Phenomena”（公開）〔Christopher Tancredi〕（David Oshima “How “should” works: with a special focus on the issue of supererogation”, Junri Shimada “Mass nouns and intensionality”, Joseph Tabolt “Evidence and epistemic modality”, Christopher Tancredi “Toward a one-world semantics”）
- C. 「話しことばの研究と「スタンス」：言語形式から社会的アイデンティティまで」〔山下里香〕（鈴木亮子「会話における繰り返し：動的なスタンス構築」、山下里香「児童の会話におけるスタンススタイルおよびコードの選択」、高

梨博子「観光場面の対話におけるスタンス行為」、岩田祐子「二言語による社会化：創発的・多層的なスタンス構築とイデオロギー」

D.「ことばは現実をどう捉えるか—ことばの対照研究のおもしろさ—」(公開特別)[廣瀬幸生](松本曜「移動事象の言語化：実験調査による英語と日本語との対照」、井上優「話し手の気持ちは言語にどう反映されるか—日本語と中国語の場合—」、岡本順治「ドイツ語の心懸詞と日本語の終助詞を使った『驚き』と『独白』の表示：その共通性と違い」、渡邊淳也「フランス語の語彙の抽象性・操作性と日本語の語彙の具象性・指示性」)

* 言語系学会連合と日本英語学会の共催シンポジウムです。

E.「フェーズ境界を超える意味・音声解釈—フェーズ理論に基づく言語インターフェースの研究—」[金子義明](金子義明「解釈プロセスの非局所的適用の可能性について」、高橋将一「下降外置：併合と局所性について」、稲田俊一郎「制限的關係節における共有構造」、瀧田健介・中村太一・前田雅子「等位接続された残余句を含むスルーシングと島の修復」)

F.「モダリティ研究の広がり—主に認知と談話の観点から—」[眞田敬介](長友俊一郎「英語法助動詞を用いて述べられる事柄の特徴」、眞田敬介「根源的mustのさらなる使用依拠的研究に向けて—周辺部に生起する評言節 I must sayの談話機能分析—」、遠藤智子「認識動詞を用いた話し手の態度表明—認識的モダリティと認識的スタンス—」、鈴木大介「モダリティと多機能性—多様な語順を生む副詞の効果—」)

G.「破格構文・例外的現象から見える言語の一般的特性」[金谷優](三野貴志「一般動詞を伴うThere構文の構文論的分析：構文の機能と動詞(クラス)特定構文の関わり」、辻早代加「winクラスの二重目的語構文の周辺性と一般性について」、金谷優「言語知識としての構文ネットワーク：because構文を例に」、住吉誠「フレーズ接続副詞としての add to that：文接続への示唆」)

公開特別シンポジウム「ことばは現実をどう捉えるか—ことばの対照研究のおもしろさ—」、公開シンポジウム“The Semantics of Intensional Phenomena”については、非会員でも無料で参加できます。会員の皆様のお知り合いで関心のありそうな方々にお声がけいただければありがたく存じます。

本大会の詳しい内容につきましては、同封の「大会資料・プログラム」および9月以降日本英語学会ウェブサイトに掲載されます「発表要旨」と「ワークショッププログラム」(ともにダウンロード可能)をご覧ください。

◇ 大会当日の受付について

大会当日は受付にて大会参加費2,000円をいただき、*Conference Handbook*と名札をお渡しします。名札をつけていない方は入室できませんのでご注意ください。ただし9日(土)午前のワークショップと9日(土)午後の公開シンポジウムおよび公開特別シンポジウムは、参加費と名札なしで入室できます。また、9日(土)の受付は11時30分より始めますので、お早めにお出かけください。

◇ 総会について

9日(土)の12:00より12:50まで総会を開催します。総会では、会長の挨拶、開催校代表のご挨拶、大会運営委員会、編集委員会、広報委員会、学会賞委員会、事務局からの報告ならびに授賞式などがあります。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

◇ 懇親会について

9日(土)18:20より19:50まで、関西学院会館において懇親会(会費4,000円、学生3,000円)を開催します。是非ご参加ください。

◇ 大会優秀発表賞について

2015年11月開催の第33回大会より、大会優秀発表賞の審査が行われています。これは事前に審査希望を申請した研究発表を審査して表彰するものです。大会終了後に審査結果をまとめ、ウェブサイトおよびニューズレターで受賞者を発表します。

◇ 証明書等の発行について

大会出席のため、所属機関に提出する証明書等

が必要な方は、返信用封筒を同封のうえ、下記までご請求ください。書式が定まっている場合には証明印以外の部分を記入したものをお送りいただければ幸いです。

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-2 開拓社内
日本英語学会事務局

◇ 学内食堂・売店の利用時間について

9日(土)・10日(日)の両日とも、学生会館旧館内BIG MAMAをご利用いただけます。営業時間は9日が11:00~14:30、10日が11:00~14:00となります。自動販売機は学会会場にあり、売店についても会場から近いところにコンビニエンスストアがあります。

◇ 宿泊先の紹介について

今回の大会のために、学会では特に宿泊先の斡旋は致しませんが、開催校の方で用意くださった近隣の宿泊先リストを大会ウェブサイトにあげてありますので、ご参考にしていただけますと幸いです。

◇ 「親と子の部屋」について

今年も大会会場近くに「親と子の部屋」という保育室を設けます。専門の保育士が待機しておりますので、安心してご利用いただけます。利用ご希望の方は同封の『「親と子の部屋」利用案内』をご覧のうえ、担当の大会運営委員と事務局までご連絡ください。

◇ *Conference Handbook* の電子化について

第38回大会から*Conference Handbook*が電子化される予定です。その移行措置として、今大会では従来の紙印刷版と電子版の両方が作成され、大会の1週間前から11月末日までの間、学会ウェブサイトからダウンロードできるようにする予定です。

第13回国際春季フォーラムのご案内

第13回国際春季フォーラムは次の通り開催される予定です。

日時：2020年5月9日(土)・10日(日)

場所：関西大学千里山キャンパス

(〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35)

研究発表とワークショップの募集につきまして

は、同封の案内をご覧ください。

終身会員の登録申請について

2017年度より、終身会員の登録申請を受け付けています。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会費3万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、*EL*、*JELS*、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加していただけます。また、すでに現在までに上記の資格を満たしている会員がおられることをふまえ、当面の経過措置として、満56歳から11年以上の会費を納めている場合には終身会員費を減額または免除します。終身会員に関する規定等については、学会ホームページ上のトップページの「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。来年度の登録申し込みは、4月1日から4月25日です。

理事会より

◇ 会長選挙・理事選挙の実施

『え〜ごがくNo.70』でもお知らせしたように、昨年度の理事会で承認された新会長選挙制度のもとでの会長選挙が今秋行われます。今回の選挙で選ばれる次期会長は任期が2021年度から2022年度で、2020年度と2023年度の各1年間は副会長を務められます。廣瀬幸生現会長は2021年度副会長を務められます。なお、その次の会長選挙は2021年度の秋に行われ、その選挙で選出される次期次期会長が2022年度副会長を務められます。

また、会長選挙と同時に理事選挙も行います。今回理事の改選は6名です。

◇ 会計

2019年6月30日に開催されました第78回理事会において、日本英語学会2018年度収支決算書と2019年度予算計画書が承認されました。

収支決算および予算計画の内容については、このニューズレターの8ページから10ページに掲載されておりますのでご覧ください。

◇ 役員の変動について

会長（退任）

2017年4月1日より2年間の任期を終えられ、伊藤たかね氏が2019年3月31日付けで会長を退任されました。

評議員（退任）

今西典子氏、上田雅信氏、奥野忠徳氏、瀬田幸人氏、高橋英光氏、高見健一氏、登田龍彦氏、中澤和夫氏、中村芳久氏、八木孝夫氏、山崎俊次氏、以上11名の方が2019年3月31日付けで評議員を退任されました。

広報委員長（退任）

鎌田浩二氏が2019年3月31日付けで広報委員長を退任されました。

学会賞委員長（退任）

杉岡洋子氏が2019年3月31日付けで学会賞委員長を退任されました。

ご退任の皆さま、これまで日本英語学会の運営にご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

会長（就任）

廣瀬幸生氏が2019年4月1日付けで会長に就任されました。

副会長（就任）

伊藤たかね氏が2019年4月1日付けで副会長に就任されました。

評議員（就任）

磯野達也氏、岩田彩志氏、菊田千春氏、高橋将一氏、田中伸一氏、田中秀和氏、野村益寛氏、平田一郎氏、村杉恵子氏、渡辺明氏、渡辺良彦氏、以上11名の方が2019年4月1日付けで評議員に就任されました。

広報委員長（就任）

大名力氏が2019年4月1日付けで広報委員長に就任されました。

学会賞委員長（就任）

水口志乃扶氏が2019年4月1日付けで学会賞委員長に就任されました。

◇ 会員数の変動について

現在の会員数は1,370名（6月1日現在）です。内訳は、学生会員36名、通常会員1,172名（海外会員17名を含む）、維持会員110名、終身会員36名（顧

問8名を含む）、賛助会員16団体となっております。

◇ 海外学会との交流について

○昨年度より、ヨーロッパに拠点を置くISLE（The International Society for the Linguistics of English）と相互の大会への参加を推進してきましたが、今年度は学会から推薦して派遣するのではなく、学会ウェブサイトにはISLEの大会情報を載せることで、個人レベルでの積極的な参加を奨励することになりました。

○ELSOK（The English Linguistic Society of Korea）との交流では、隔年で本学会の会員をELSOKの大会に派遣しています。来年度はその年度にあたるため、現在候補者について検討しています。

編集委員会より

◇ 第19期編集委員会（*English Linguistics*

第37～38巻編集担当）新任編集委員について

編集委員会規定（2009年4月1日施行）に従い、第19期編集委員会の新任委員が以下のように選出されました。新任委員の1期目の任期は2019年7月1日から2021年9月30日までです。第18期編集委員会から引き継ぐ2期目の委員の任期は2019年10月1日から2021年9月30日までです。2019年7月から9月までの期間は、第18期編集委員会と第19期編集委員会の引き継ぎ移行期となり、分担協力してELの編集業務が行われます。

<新任委員13名>遠藤喜雄氏（神戸外語大学）、大室剛志氏（名古屋大学）、岡田禎之氏（大阪大学）、小川芳樹氏（東北大学）、小野尚之氏（東北大学）、小畑美貴氏（法政大学）、Jason Ginsburg氏（大阪教育大学）、鈴木猛氏（東京学芸大学）、土橋善仁氏（新潟大学）、縄田裕幸氏（鳥根大学）、西山國雄氏（茨城大学）、山腰京子氏（お茶の水女子大学）、Ian Wilson氏（会津大学）

<2期目の委員12名>赤楚治之氏（名古屋学院大学）、岡崎正男氏（茨城大学）、金子義明氏（東北大学）、佐野哲也氏（明治学院大学）、澤田治氏（三重大学）、辻子美保子氏（神奈川大学）、田中智之氏（名古屋大学）、時崎久夫氏（札幌大学）、西垣内泰介氏（神戸松蔭女子学院大学）、野村益寛氏（北海道大学）、長谷川宏氏（専修大学）、本多啓氏（神戸市外国語大学）

◇ 2018年度EL論文賞の決定について

EL35巻に掲載され、1次審査通過論文として選定されたArticle 3編 (Syntax 2, Syntax/Semantics 1) について、6名の最終選考委員により最終審査が行われ、以下の2編が受賞論文として決定しました。

- 林 慎 将：“The Derivation of Non-Restrictive Relative Clauses and Their Invisibilities” (分野：Syntax)
- 前澤 大樹：“Reconstruction, Cyclic Transfer and Reintegration” (分野：Syntax/Semantics)

年7月31日現在)。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	6	0	2	0	4
BA	4	0	4	0	0
N&D	1	0	0	0	1
RA	2	0	0	0	2
Review	3	3	0	0	0
4ヶ月書き直し					
AR	2	1	0	0	1
BA	0	0	0	0	0
合計	18	4	6	0	8

なお、「特別企画2018」の事前審査(2018年12月15日締め切り)には2件の応募があり、うち1件に一括投稿が認められました。当該企画(Brief Article相当論文3編とIntroduction)は2019年5月31日に一括投稿され、一般論文とは別に現在審査中です。

◇ *English Linguistics* 第35巻2号(2019年春号)の刊行について

EL35巻2号(春号)が刊行されました。特別企画招聘論文(Invited Article)2編、Article1編、Brief Article1編、Review4編が掲載されています。会員の皆様には刊行が遅れましたことをお詫び申し上げます。

◇ *English Linguistics* 第36巻1号(2019年秋号)の刊行予定について

EL36巻1号(秋号)は2019年9月刊行予定です。特別企画招聘論文(Invited Article)2編、Brief Article1編、Review5編が掲載される予定です。

◇ *English Linguistics* 第36巻2号(2020年春号)の応募論文について

2019年4月1日締め切りで投稿された一般論文の総数は11編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article6編(Syntax3, (Formal) Semantics2, Historical Linguistics1)、Brief Article4編(Syntax2, Syntax/Historical Linguistics1, Cognitive Linguistics1)、Notes and Discussion1編(First Language Acquisition/Syntax1)でした。また、「4ヶ月書き直し」として再投稿された論文は、Article2編(Morphology/Semantics1, Pragmatics1)でした。

以下の表は、懲滯によるReview Article2編およびReview3編、36巻1号に応募されて「4ヶ月書き直し」と判定され36巻2号に再投稿された論文2編も含めた、36巻2号の審査状況です(2019

◇ *English Linguistics* 第37巻1号(2020年秋号)への投稿について

2020年9月発行予定のEL37巻1号の応募締め切りは、2019年9月20日24時(必着)です。応募される方は、学会ホームページに記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ 「特別企画2019：特集テーマによる一括投稿論文」の公募について

編集委員会は、EL37巻の編集に向けて、本年度も「特別企画2019：特集テーマによる一括投稿論文」の公募を行うことを決定しました。事前申し込みの締め切りは、2019年12月15日です。公募案内が学会HPに掲載されていますので、ご覧の上、ご応募ください。

大会運営委員会より

- ◇ 第37回大会個人研究発表への応募の審査結果
個人研究発表には29件の応募があり、審査の結果24件が採用されました。

◇ 大会での招聘・懲遷制度について

大会での招聘・懲遷制度に形骸化している面があるのではないかという指摘を受け、大会運営委員会で検討が重ねられてきました。その結果、これまでの招聘制度に代え、英語学とその関連分野の交流を活性化することを目的として、幅広いテーマに関する講演を企画することになりました。第37回大会の特別講演はその先行モデルとして実施されるものです。また、懲遷制度については、発表応募の準備がしやすくなるよう、これまでよりも早い時期に対象者に呼びかけることになりました。

◇ 第12回国際春季フォーラム報告

日本英語学会第12回国際春季フォーラムは、2019年5月11日、12日に聖心女子大学において開催されました。今年度のフォーラムでは、国内外からの4名の研究者による招待講演(全体講演)、19件の研究発表、7件のポスター発表が行われました。また第11回大会に引き続きワークショップも1件行われました。153名の参加者があり、活発な議論が展開されました。今後、さらに国際的なフォーラムとして飛躍発展することが期待されます。フォーラムの運営を支えてくださった開催校の林龍次郎先生をはじめとする開催校委員の先生方と学生の方々、米山聖子実行委員長をはじめ大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。

◇ 国際春季フォーラム優秀発表賞審査結果報告

第9回国際春季フォーラムより、国際春季フォーラム優秀発表賞の審査が行われています。事前に審査希望を申請した研究発表を対象とし、応募アブストラクトの査読点による一次審査およびフォーラム当日の発表に対する二次審査により授賞が決定されます。第12回国際春季フォーラム優秀発表賞の審査の結果が6月に開催された大会運営委員会で審議され、山田彬堯氏の研究発表“Comparisons and speech acts in Japanese exclamatives”に優秀発表賞を授与することが決定しました。審査結果は学会ウェブサイトにて公表されています。

広報委員会より

◇ *EL*バックナンバーのオープンアクセス化について

広報委員会では、刊行後2年以上経過した*EL*のJ-STAGE 3(科学技術情報発信・流通総合システム)でのオープンアクセス化に取り組んでいます。2019年7月末日現在、*EL*第32巻2号(2015)まで公開されております。以下のURLをご参照ください。<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj>

◇ *EL*最新刊PDF版の会員向け公開について

2016年2月よりEnglish Linguistics Onlineの名称で学会ウェブサイトの以下のURLにて*EL*最新刊のPDF版論文を公開しています。2019年6月上旬に*EL*第35巻1号・2号の掲載論文がアップロードされました。なお、*EL* OnlineのPDFへのアクセスには、印刷版*EL*の毎巻2号の裏表紙内側に印刷されるIDとパスワードが必要となります。

http://elsj.jp/english_linguistics-eng/english-linguistics-online/

学会賞委員会より

◇ 新人賞と学会賞(論文)の応募状況

2019年度新人賞と学会賞(論文)の応募は4月15日に締め切られました。有資格者である2018年度*EL*論文賞受賞者から、新人賞1件の応募がありました。また、学会賞(論文)へも1件応募がありました。対象論文は、ともに、統語論に関する論考です。現在、選考委員会において厳正な審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催される日本英語学会総会で報告されます。

◇ 学会賞(著書)の応募状況

4月15日に締め切られた2019年度学会賞(著書)には3件の応募がありました。会員としての会費納入条件を満たしており、また応募著書は2年以内に刊行されていることが事務局により確認されましたので、応募申請は3件とも受理されました。審査領域は、意味論/語用論1件、生成統語論1件、メタ理論1件です。学会賞(著書)は、1次審査と最終審査の2段階で選考され、現在、厳正に審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催される日本英語学会総会で報告されます。

日本英語学会2018年度会計報告

2018年度収支決算書（2019年4月1日現在）が監事（岡崎正男氏、小野尚之氏）による監査を経て、6月30日開催の第78回理事会で承認されました。

日本英語学会2019年度予算計画

以下に記載いたします2019年度予算計画書が6月30日開催の第78回理事会で承認されました。

**日本英語学会2019年度
学生会員発表助成金予算計画**

以下に記載いたします2019年度学生会員発表助成金予算計画書が6月30日開催の第78回理事会で承認されました。

日本英語学会2019年度 市河三喜研究助成金予算計画

以下に記載いたします2019年度市河三喜研究助成金予算計画が6月30日開催の第78回理事会で承認されました。

6月16日に運営委員会が筑波大学で開催され、昨年度の活動と決算案、今年度の活動計画案と予算案等について審議が行われ、すべて承認されました。また、今年度から新たに、公開イベントの「共催」制度を実施することが決定されました。これは、加盟学会が主催する公開イベント（公開シンポジウムや公開講演会など）に関して、一定の条件を満たす場合、年間5件まで、言語系学会連合から1件につき3万円の補助金を出し、「言語系学会連合との共催」という文言をポスター等に入れていただく制度です。

今年度学会連合イベントとして、日本英語学会との共催による公開特別シンポジウムを11月9日の本学会大会時に開催することになりました。題目と司会・講師は次の通りです。

・題目：「ことばは現実をどう捉えるか—ことばの対照研究のおもしろさ—」

・司会：廣瀬幸生（筑波大学）、講師：松本 曜（国立国語研究所）、井上 優（麗澤大学）、岡本順治（学習院大学）、渡邊淳也（東京大学）

詳細は、言語系学会連合のホームページ

<http://www.nacos.com/gengoren/index.html> ならびに日本英語学会の大会情報ページをご覧ください。

連合に加盟している学会の活動予定が、日本英語学会の大会予定も含めて、上記の言語系学会連合ホームページの「加入学会カレンダー」に掲載されていますので、ご活用ください。

事務局より

◇ 会員数について

「理事会より」の欄でもお伝えしたように、2019年6月1日現在の会員総数は1,370名です。

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会則第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

◇ 学生会員登録（継続会員）について

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。 申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますので

言語系学会連合について

今年度は、日本英語学会が運営を担当することになりました。運営委員、監査委員、事務局は以下の通りです。

【運営委員】（任期は2019年4月より1年間）

廣瀬幸生（委員長、日本英語学会）、カイト由利子（副委員長、全国語学教育学会）、野田尚史（日本言語学会）、森山卓郎（日本語学会）、小林ミナ（日本語教育学会）

【監査委員】

林 徹（日本言語学会）（学会として2018年4月より2年間担当）、月本雅幸（日本語学会）（学会として2019年4月より2年間担当）

【事務局】（任期は2019年4月より1年間）

金谷 優（事務局長、日本英語学会）

ご注意ください。今年度の学生（継続）会員手続きは、4月25日に締め切りました。

手続きの方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ 学生会員登録（新規入会）について

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、申告期間に関わらず、いつでも学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意ください。

詳しくは、学会ウェブサイトをご確認下さい。

◇ *EL*、*JELS*への論文投稿に関するお願い

EL、*JELS*に論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」「*JELS*投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信して下さい。開拓社から送られる受領確認用の自動返信メールアドレスに送信されても受理できません。

*EL*に関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「*English Linguistics* 投稿規定」ページ末尾の「投稿論文の*EL*掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記して下さい。

*JELS*や所属機関のworking papers等に掲載された研究（の一部）を発展させて*EL*に投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載して下さい。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3人称表現をご使用下さい。

◇ *EL*掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

*EL*に掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、*EL*に掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にお知らせ下さい。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」に*EL*に掲載された論文を登録

することを希望される場合、事務局までお知らせ下さい。日本英語学会では、発行後2年以上経過した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意願います。

◇ *JELS*掲載論文の再録・登録に関するお願い

*JELS*掲載論文についても、再録および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、*EL*掲載の論文と同様に、事前に事務局まで（elsj-info@kaitakusha.co.jp）お申し出下さい。

*JELS*掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載をお認めしています。

◇ *EL*公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室で*EL*を購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていたいただきたく存じます。*EL*がより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いたします。

◇ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、*EL*への投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力下さい。

◇ 連絡先等変更のご連絡のお願い

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡下さい。連絡方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ 新事務局の体制

本年度4月1日付けの廣瀬幸生会長の就任に伴い、事務局でも次のような異動がありました。新事務局のメンバーは前事務局の方々から多くのサ

ポートをいただいておりますが、何分にもそれぞれの業務に不慣れです。会員の皆さまにご迷惑をおかけしないよう業務に臨む所存ですが、皆さまのご理解とご協力を今後ともお願いいたします。

退任

事務局長 磯野達也（成城大学）
（2019年4月30日付）

広報委員会担当書記

磯部美和（東京藝術大学）

財務・学会賞委員会・理事会担当書記

岡部玲子（専修大学）

評議員会担当書記

山口京子

（以上 2019年3月31日付）

大会運営委員会担当書記

山口京子

（2019年4月30日付）

国際春季フォーラム担当書記

磯部美和（東京藝術大学）

（2019年5月31日付）

就任

事務局長 和田尚明（筑波大学）
（2019年5月1日付）

評議員会担当書記

田村敏広（静岡大学）

財務・学会賞委員会・理事会担当書記

大澤舞（獨協大学）

広報委員会担当書記

小薬哲哉（大阪大学）

編集委員会担当書記

今野弘章（奈良女子大学）

編集委員会担当書記

五十嵐啓太（岩手県立大学）

言語系学会連合事務局担当書記

金谷優（筑波大学）

（以上 2019年4月1日付）

大会運営委員会担当書記

田村敏広（静岡大学）

（2019年5月1日付）

国際春季フォーラム担当書記

小薬哲哉（大阪大学）

（2019年6月1日付）

編集後記

5月1日に事務局を引き継ぎ、前事務局の皆様にも多方面において助けていただきながら、あっという間に4か月が過ぎました。前事務局から受け継いだ課題として、学会のペーパーレス化・オンライン化がありますが、そちらへかじを切り、下地を整えるのが現事務局の使命と考えています。少しずつでも進めていければと思っております。

また、学会の事務量の多さならびに複雑さに戸惑いつつも、前事務局の皆様や各委員会委員長のご尽力もあり、何とかこなしております。ただ、持続可能性という観点からは事務局の仕事を大幅に簡素化していかなければ、到底持たないという危機感を感じています。事務局の仕事の軽減も現事務局の課題の一つとして見直しをかけていきたいと思っております。その結果、会員の皆様におかれましてはご不満にお思いになられることもあるかもしれませんが、維持可能な規模の事務局にするために、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

第37回大会は関西学院大学での開催となります。会場周辺にはホテルは少ないのですが、近隣の大阪や神戸にはホテルも多く、会場までは少し時間はかかりますが、電車やバスなどを乗り継いで容易にアクセス可能です。現在、開催校委員、運営委員の方々の精力的なご協力で準備が着々と進んでいます。美しいキャンパスの秋の関西学院大学で皆さまにお目にかかれることを楽しみにしております。

(N.W.)

2019年9月10日発行

編集・発行 日本英語学会
代表者 廣瀬 幸生
発行所 日本英語学会
<http://elsj.jp/>

〒113-0023
東京都文京区向丘1-5-2
開拓社内
電話 (03) 5842-8900
